服飾文化共同研究報告 2011
共同研究番号 22005

ヴィクトリア朝の服飾表現にみる女性の自立と身体観に関する研究

Victorian Women's Independence and their Body Images Shown through their Selecting Costumes

佐々井 啓[*1+], 坂井 妙子[*2+], 好田 由佳[*3+], 山村 明子[*4+], 米今 由希子[*5+]
Kei Sasai[*1+], Taeko Sakai[*2+], Yuka Koda[*3+], Akiko Yamamura[*4+], and Yukiko Komeima[*5+]

*1 日本女子大学家政学部 東京都文京区目白台 2-8-1
Faculty of Human Sciences and Design, Japan Women's University,
2-8-1, Mejirodai Bunkyo-ku, Tokyo, Japan
*2 日本女子大学人間社会学部
Faculty of Integrated Arts and Social Sciences Humanities, Japan Women's University,
*3 堺女子短期大学美容生活文化学科
Department of Beauty and Life Culture, Sakai Junior College
*4 東京家政学院大学現代生活学部
Faculty of Contemporary Human Life Science, Tokyo Kasei Gakuin University
*5 明星大学教育学部
School of Education, Meisei University
+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract: The purpose of this project is to clarify Victorian women's life and their body images by examining contemporary women's magazines. Their importance has been widely recognized by researchers of historical dresses, but their main focuses have been on the styles and colours of fashionable dresses and dress accessories. Re-reading Victorian women's magazines and re-focusing on the issues such as women's actual life styles and their way of thinking will give us a new understanding of Victorian culture.

This year, we examined British major fashion magazines issued in the nineteenth century to compile their outlines. As this task has been successful, we are ready to compile articles which illuminate women's autonomy and their changing body images through this period.

目的 本研究は、イギリス・ヴィクトリア朝の社会に注目し、女子教育の普及と女性の自立に対する意識の高揚が女性雑誌の普及と関連があることを明らかにする。あらたに選んだ女性雑誌、スポーツ・演劇関係雑誌の記事を分析し、文献情報を確立することを目指すとともに、これまで概説書等では充分に明らかにされていなかったヴィクトリア朝の女性の自立と身体観に関する実態を、演劇、キャラクター、アウトドアフ

＊1） sasai@fc.jwu.ac.jp

ァッション、レジャースポーツ、ジャポニスムの観点から明らかにする。

方法 19 世紀に刊行されたイギリスの女性雑誌、スポーツ・演劇雑誌を調査し、それらの記事を分析して、服飾表現を通して女性の生き方を明らかにする。本年度は、国内およびイギリスの図書館に所蔵されている雑誌を取り上げ、その概略を調べるとともに、最終目的である女性の自立と身体観についての資料を収集した。

結果 今回、調査を行った女性雑誌、スポーツ・演劇雑誌の特徴を以下に挙げる。

① イラストレイテッド・スポーティング・アンド・ドラマティック・ニュース ***Illustrated Sporting and Dramatic News*** (図1)

同誌は 1874 年にロンドンで創刊され、1945 年まで続いたスポーツと演劇を中心とした週刊雑誌である。その名が示す通り、スポーツと演劇はイギリスにとって欠かせない趣味であった。スポーツのなかでも特に乗馬は貴族の趣味として周知のことであるが、同書では競馬について多くの記事を扱っている。また、演劇に関する情報も多く、他の女性誌の記事と比較して読むことができる。

創刊号は 1874 年 2 月 28 日で、24 ページからなっている。表紙は演劇の場面から女優が描かれることが多い。また、毎週の上演情報が載せられていることも特徴であろう。この号には女性の乗馬姿が 1 ページ大で描かれ、さらにはコルセットやクリノリン、バッスルといった女性のアンダーウエアの広告があることから、女性の読者を想定していると考えられる。

さらに 1884 年 3 月号には女学生の体操の様子が紹介され、8 月号には女性のテニスの場面が描かれている。1896 年 11 月 28 日号からは「スポーツ女性のページ」が始まり、自転車や靴、サドルの紹介があり、次号からは銃猟、フィッシング、スケート、ゴルフなどのスポーツと衣服が掲載されている。

一方、話題となった演劇は必ず紹介され、舞台の1場面のスケッチや写真、風刺的な評論など、さまざまな角度から取り上げられている。とりわけ日本をテーマとした「ミカド」や「芸者」が評判になる前から、日本の文化の紹介記事が扱われていることは注目に値する。

② レディーズ・レルム ***The Lady's Realm*** （図２）

この雑誌は、1880 年に設立されたロンドンのハッチソン社(Hutchinson & Co)から 1896 年に創刊され、1916 年まで続いた女性雑誌である。価格は、6 ペンスの月刊誌で、出版社はハッチンソン社から、スタンリーポール社、合同マガジン社と変わっている。

「レディーズ・レルム」が取り上げる記事の内容は、少女向け雑誌として幅広い読者層から支持を得た「ガールズ・オウン・ペーパー」（1880 年創刊）を踏襲し、連載小説、家庭生活一般、職業、ファッションに至るまで、当時の女性の関心事を幅広く網羅している。

なかでも、当時、若い女性たちに人気を得たスポーツに関する記事を定期的に取り上げていることが特筆すべき点の一つである。同誌が出版された当初は、サイクリングが流行していた時期であり、「女性のサイクリング熱」(1896 年)とタイトルがつけられた記事がミセス・リン・リントンによって書かれている。そこでは、自転車のペダルをこぐ姿が、女性として下品であることが述べられ、反対に、乗馬や、散歩、ダンス、スケートが上品なスポーツとして紹介されている。この雑誌の興味深い点は、この記事に対するミス・スーザンの反対意見を「女性のサイクリング：反論」として掲載しているところである。幅広い読者層を意識し、女性

スポーツに対する賛否両論をどちらも紹介している点は、当時の新しい女性観の誕生への相反する見解を明確に表している。新しい女への関心も深く、「有名な女性トラベラーたち」(1897 年)と題された記事を掲載し、レディベイカーや、イザベラ・バードという新しい生き方をする勇敢なヴィクトリア朝の女性たちを取り上げている。それと同時に、スポーツや旅行をする際のアウトドアファッションを挿絵入りで紹介し、新しい考えを持つ女性たちが、機能的な衣服を装う契機を与えた女性雑誌の一つとして位置づけることができる。この雑誌をとおして、ヴィクトリア朝の女性の自立を肯定的に捉えつつある時代の息吹を感じ取ることができる。

③ レディース・キャビネット・オブ・ファッション *The Ladies'Cabinet of Fashion* (図 3)

この雑誌は 1832 年創刊、70 年まで続いた。女性雑誌ではすでに定着したパターンである、ファッションを含む美容関連記事と連載の読み物、時事評、演劇、展覧会、コンサート情報で構成されている。ファッションはパリの最新流行を速報することに重きを置く傾向が見られる。たとえば、図3は 1862 年号に掲載されたドレスとショールの組み合わせだが、スカートにはフラウンスが付き、それを黒レース三段でトリミングしている。レースは裾へ向かうほど幅が広くなっている。キャプションによると、ボディスにも、同レースで作られたリボン飾りが付いている。このドレスにふさわしい外着として、幅広のレース二段でトリミングされた装飾的なショールが提案された。紗織りの白地に黒色のレースはひときわ映え、下に纏ったブルーのスカート、黒レースのトリミングとの調和がエレガントである。このプレートは、同誌の読者がパリの最新流行のスタイルを纏うことができる社会的、経済的地位を持ち、なおかつ、洗練されたファッションセンスの獲得を目指す階層であることを示すだろう。同誌はそのような読者をターゲットとした高級ファッション雑誌である。

④ マイラズ・ジャーナル・オブ・ドレス・アンド・ファッション *Myra's Journal of dress and fashion* (図4)

同誌は 1875 年 2 月から 1912 年までロンドンにて発行された女性向け月刊誌である。*"English women's domestic magazine"*や"*Mrs. Beeton's Book of Household Management*"によってミドルクラスの理想的なライフスタイルに影響を及ぼしていた、サミュエル・ビートン(Samuel Beeton)が手掛けた同誌もまたミドルクラスの女性を読者層としていた。同じく"Englishwoman's Domestic Magazine"にて執筆していた、マイラ・ブラウン(Myra Browne)がペンネーム:Silkworm を用いて 1899 年 11 月まで執筆した"Spinnings in town" という記事が中心的存在であり、その時々の街中の流行を伝える内容となっている。その他にはパリのファッション、ロンドンのファッションの記事、淑女のための適切な仕事に関する記事、女性や子供向けの衣服の制作用のパターンや手芸や裁縫の指南記事なども掲載されている。さらに付録にはフルカラーに彩色された鮮やかなファッションプレートや実物大の刺繍図案のシートなどがついていた。ドレスとファッションという副題がついているが、「私の読者は、私がリクエストについに応じたことを理解するでしょう」とコメントを付して読者の要望に応えて 1876 年 3 月からは料理のレシピも掲載され、女性向けの総合的な家庭向け実用誌の体裁を整えている。

ファッションの記事に着目すると、銃猟などのレジャースポーツ用の衣服が登場するのは 1892 年である。これは同時期に発行されていた"*The Queen*" や"*Ladies' Pictorial* "などと比較すると、年代的には遅い。このように取り上げられるファッションの違いはまさしく対象読者層の違いであるといえよう。また、1890 年代には他誌のファッション記事ではテーラーメイドのファッション及びその店の紹介記事が数多く掲載されているが、「マイラズ・ジャーナル」では記事や付録のパターンを利用して、読者が流行の衣服を仕立てる

（または仕立てさせる）ことを可能とする情報を多く提供していることも特徴である。そのため、付録のドレスパターンのデザイン画に雑誌のオリジナルのデザイン画が用いられている。これは同時期のテーラーメイドのデザインを模倣してはいるものの、異なるテイストを示しているのも特徴的である。

⑤ レディズ・ピクトリアル　*Lady's Pictorial*　（図5）

同誌は 1881 年 3 月から 1921 年までロンドンで発行されていた女性雑誌で、毎週土曜日に刊行される週刊誌である。値段は 3 ペンスで、内容はファッション、家事、女性の仕事、演劇評などについての記事や小説で、一般的な女性雑誌と同様の傾向がみられる。これらの記事は毎号、ほぼ同じような体裁で編集されている。また、国内外のニュース記事もその時々で掲載されている。1881 年 3 月 5 日の創刊号は、26 ページからなり、1 面広告が載せられているページは 6 ページあるが、上半分が記事で下半分が広告という紙面も 9 ページになる。その中には家具や食器、コルセットやドレス、ミシンや双眼鏡といった商品の広告に混じって、プディングやケーキのレシピを載せた料理学校の広告もみられる。記事の内容はイラスト入りでパリのファッションが紹介されているほか、見開き 2 ページにわたるイラスト入りのファッション記事が掲載されており、演劇、展覧会、コンサートなどの情報や、手芸、家事、身支度の整え方や女性の仕事についての記事が主である。

また 1885 年 1 月 10 日号にはその日に開幕したばかりの日本人村について紹介されており、次週の 1 月 17 日号には 1 面のイラスト付で記事が掲載されている。そこには扇を持って踊る女性と三味線を弾く女性が描かれていたり、壷絵師など職人の仕事の様子なども描かれており、記事はその盛況ぶりを伝えている。さらに 1885 年 3 月 21 日号には「ミカド」を紹介する記事が掲載されるが、こちらも 1 面のイラスト付で、14 日に初演されたものをその週に載せていることが分かる。イラストは主要な登場人物を画面に配しているが、サプリメントとして日本人の挿絵画家によるイラストも付属されており、その描写の違いが比較でき興味深い。

図1イラストレイテッド・スポーティング・アンド・ドラマティック・ニュース

Fig.1 *Illustrated Sporting and Dramatic News*

1）創刊号表紙 1874 年　　2）スポーツ女性のページ　1896 年

Title page 1874　　'Sportswomen's Page' 1896

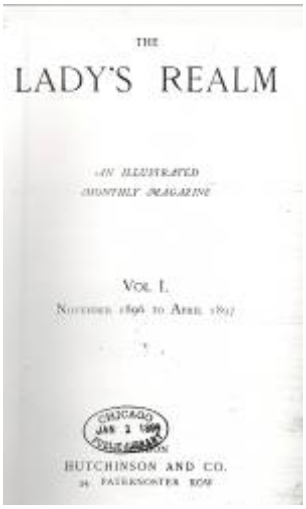

図2　レディーズ・レルム（同志社大学所蔵）ファッションページ　1898 年

Fig.2 *The Lady's Realm* (Doshisha University)　　Fashion page 1898

図3　レディース・キャビネット・オブ・ファッション　1859 年号、1862 年号

Fig.3 *The Ladies' Cabinet of Fashion*　　1859, 1862

図 4　マイラズ・ジャーナル　1882 年 1 月号　　1893 年 8 月号

Fig.4 *Myra's Journal of dress and fashion* Jan.1882　　Aug.1893

図5 レディズ・ピクトリアル 1881 年 3 月 5 日号

Fig.5 *Lady's Pictorial* 5 March 1881

タイトルページ Title page　　ファッションページ Fashion page

日本人絵師による「ミカド」のイラスト

Illustration of 'The Mikado' by Japanese illustrator

1885 年 3 月 21 日号 21 March 1885